

専門委員会開催報告

会合名	第 6 回「遮蔽計算手法の V&V 検討」研究専門委員会 本会議
会議種別	本会議
開催日時	2023 年 3 月 31 日(金)13:30~15:30
開催場所	Web 会議(WebEx)
参加人数	18名 (海技研)浅見、大西、平尾、鎌田(主査)、(KEK)平山、波戸、(安藤ハザマ)奥野、(ATOX)河野、坂本、(日環研)大石、(JASRI)糸賀、(JAEA)奥村、中根(RIST)仁井田、(東芝 ESS)金丸、(SSR)杉田、(CTC)坪井、(MHI)尾方
議事	<p>1. 主査挨拶, 説明 鎌田主査から挨拶と、「遮蔽解析手法の V&V 検討」研究専門委員会第 5 回会合議事録案について確認がなされた。</p> <p>2. 報告書の内容確認 鎌田主査(海技研) 担当各委員及び外部協力者により執筆していただき、幹事会で編集した以下の内容の委員会報告書のドラフト(約 60 頁)が示された。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 概要(経緯説明、委員名簿、執筆者名簿など)2. 遮蔽解析 V&V の進め方についての提言3. 遮蔽解析に使用されるデータ・コードの概要4. 遮蔽解析の概要 <p>委員からのコメントを受け、幹事会がコメント反映、修正・追記編集などを行い、本委員会の最終報告書として取りまとめ、メールベースで委員と執筆者に確認をってもらうこととした。</p>
備考	

専門委員会開催報告

会合名	第5回「遮蔽計算手法のV&V検討」研究専門委員会 本会議
会議種別	本会議
開催日時	2023年2月10日(金)13:30~15:30
開催場所	Web会議(WebEx)
参加人数	18名 (海技研)鎌田(主査)、大西、(KEK)平山、波戸、(RI協会)上蓑、(安藤ハザマ)奥野、(ATOX)河野、(日環研)大石、(JASRI)糸賀、(JAEA)奥村、(エネ総研)田中、(RIST)仁井田、(TN)谷内、(東芝 ESS)吉岡、(SSR)杉田、(CTC)坪井、(NDC)中田、(MHI)尾方
議事	<p>1. 主査挨拶, 説明 鎌田主査から挨拶と、「遮蔽解析手法のV&V検討」研究専門委員会第4回会合議事録案について確認がなされた。</p> <p>2. ガイドライン作成手順案 鎌田主査(海技研) 海技研鎌田主査により、幹事会での議論を踏まえた資料 VV5-3「概念モデル整理検討事項」に基づき、ガイドライン作成手順案について以下の議論と提案がなされた。</p> <ul style="list-style-type: none">・データ・コード開発者が行っている「データ・コードV&V」と事業者が行っている「特定業務V&V」の違いを説明。・学会標準 V&V は、解析対象を特定している後者に相当し、本委員会が最終目標とするのは「特定業務V&V」とする。・開発者と事業者(利用者)の双方にメリットがある報告書の作成を目指す。・執筆する特定業務と分担は、遮蔽ハンドブック応用編に準ずる。 <p>3. その他連絡事項など</p> <ul style="list-style-type: none">・幹事会から原稿様式を配布するので、年度末までに報告書原稿を作成する。・原稿ドラフトは幹事会が中心となって編集作業を行う。・次回会合は報告書ドラフトが完成する見込みの3月下旬をめどに行う予定。
備考	

2023年2月2日

専門委員会開催報告

会合名	第6回「遮蔽計算手法のV&V検討」研究専門委員会 幹事会
会議種別	幹事会
開催日時	2023年1月26日(木)10:00~12:00
開催場所	Web会議(WebEx)
参加人数	4名 鎌田主査(NMRI), 浅見幹事(NMRI), 糸賀幹事(JASRI), 奥村幹事(JAEA)
議事	<p>1. 主査説明 今回の幹事会では、年度内の委員会開催と委員への執筆依頼に向けて、「概念モデルの整理」に係る執筆項目の内容を決める旨の説明があった。</p> <p>2. 議論 ・概念モデルの整理のために委員に示す具体的な項目とフォーマットについて議論を行った。結果、過去のキャスク遮蔽評価の事例を参考として本委員会で示して意見を頂くこととした</p> <p>3. その他連絡事項など 本会議は2月初旬に開催することとし、資料と案内の準備を進める。</p>
備考	

2022 年 12 月 14 日

専門委員会開催報告

会合名	第 4 回「遮蔽計算手法の V&V 検討」研究専門委員会 本会議
会議種別	本会議*分科会、WG 等具体的に記入のこと
開催日時	2022 年 11 月 2 日(水)13:30～15:30 入のこと メール審議の場合は開始、終了日を記すこと
開催場所	Web 会議(WebEx)
参加人数	22名 浅見(NMRI), 糸賀(JASRI), 奥村(JAEA), 上菘(RI 協会), 大石(日環研), 大西(NMRI), 平尾(NMRI), 谷内(TNT), 坪井(CTC), 金丸(東芝 ESS), 吉岡(東芝 ESS), 河野(ATOX), 坂本(ATOX), 田中(IAE), 中田(NDC), 仁井田(RIST), 延原(TNS), 杉田(科学システム研究所), 波戸(KEK), 萩原(QST), 鎌田(NMRI)
議事	<p>1. 主査挨拶, 説明 鎌田主査から挨拶と、「遮蔽解析手法の V&V 検討」研究専門委員会第3回会合議事録案について確認がなされた。</p> <p>2. 「データ・コード V&V と特定業務 V&V」 JAEA 奥村幹事 JAEA 奥村幹事により, 幹事会での議論を踏まえた資料 VV4-3「データ・コード V&V と特定業務 V&V」に基づき、ガイドライン作成手順案について提案がなされ、それに基づいて議論を行った。</p> <p>3. その他連絡事項など 今後も Web 会議で行う。 次回会合は 12 月下旬をめぐりに行う予定。</p>
備考	

2022 年 10 月 19 日

専門委員会開催報告

会合名	第 5 回「遮蔽計算手法の V&V 検討」研究専門委員会 幹事会
会議種別	幹事会
開催日時	2022 年 10 月 12 日(水)10:00~12:00
開催場所	Web 会議(WebEx)
参加人数	5 名 鎌田主査(NMRI), 浅見幹事(NMRI), 糸賀幹事(JASRI), 尾方幹事(MHI), 奥村幹事(JAEA)
議事	<p>1. 主査説明 今回の幹事会では、年内の委員会開催と委員への執筆依頼に向けて、「概念モデルの整理」に係る執筆項目の内容と委員の作業分担を決める旨の説明があった。</p> <p>2. 議論 ・データ・コード開発者が考えている V&V(解析対象を特定しないデータ・コードの V&V)と学会標準 V&V(特定業務 V&V)の違いを明確にしておく必要がある。 「概念モデルの整理」に係る執筆は、遮蔽ハンドブック(応用編)で扱った特定業務とする。執筆分担は同ハンドブックの執筆者から選定する。</p> <p>3. その他連絡事項など 本会議は 11 月初旬に開催することとし、資料と案内の準備を進める。</p>
備考	

2022年10月7日

専門委員会開催報告

会合名	第4回「遮蔽計算手法のV&V検討」研究専門委員会 幹事会
会議種別	幹事会
開催日時	2022年10月06日(木)10:30~12:00
開催場所	Web会議(WebEx)
参加人数	5名 鎌田主査(NMRI), 浅見幹事(NMRI), 糸賀幹事(JASRI), 尾方幹事(MHI), 奥村幹事(JAEA)
議事	<p>1. 主査説明 鎌田主査から今回の幹事会では、前回の幹事会(6月7日開催)で議論した宿題事項について議論する旨の説明があった。</p> <p>2. 議論 6月7日の幹事会で議論した内容を踏まえて、V&V策定のためのガイドライン案について議論し、以下の方針を決定した。</p> <ul style="list-style-type: none">・学会標準を適用した遮蔽解析の事例を作成することは、数学的モデル化と物理的モデル化まで考えると、一つのプロジェクトに匹敵し、時間的にも費用的にも困難である。また、事例に関係する特定の委員にだけ負荷をかけ、他の委員は傍観者になる可能性がある。・遮蔽ハンドブック作成者が多い本委員会では、そのメリットを生かし、遮蔽ハンドブック応用編での遮蔽解析の内容を想定し、学会標準のV&Vの最初のステップとなる「概念モデルの開発」を委員で分担して行う。 <p>3. その他連絡事項など 次回の幹事会(10月中)までに、執筆項目案と分担案を作成し、年内に委員会を開催して方針確認と作業依頼をする。</p>
備考	

専門委員会開催報告

会合名	第3回「遮蔽計算手法のV&V検討」研究専門委員会 幹事会
会議種別	幹事会
開催日時	2022年6月21日(火)10:45~12:00
開催場所	Web会議(WebEx)
参加人数	5名 鎌田主査(NMRI)、浅見幹事(NMRI)、糸賀幹事(JASRI)、尾方幹事(MHI)、奥村幹事(JAEA)、中野幹事(日立GE)
議事	<p>1. 主査説明 鎌田主査から今回の幹事会では、前回の幹事会(6月7日開催)で議論した宿題事項について議論する旨の説明があった。</p> <p>2. 議論 6月7日で議論した内容を踏まえて、V&V手順策定のためのガイドライン案について議論し、以下の意見と提案がなされた。</p> <ul style="list-style-type: none">・日本原子力学会標準「シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン：2015」の内容に沿ったものにするのが良いが、複数分野を想定して抽象的な表現が多いため、遮蔽解析への具体的な適用をイメージできるものにする必要がある。・「放射性物質輸送容器のモンテカルロ法による遮蔽安全評価手法ガイドライン原案の策定」が先行事例として参考になる。・特定の委員にだけ負荷がかかる活動ではなく、様々な遮蔽解析の専門家の知識が活かせるガイドライン作成内容とする必要がある。・新しいデータ・コードの開発者とそれらの利用者の双方にメリットがある内容とすることが好ましい。 <p>3. その他連絡事項など 本会議では、浅見幹事、糸賀幹事、尾方幹事、奥村幹事、中野幹事からの提言、をもとに引き続きガイドライン策定方針について議論することとした。</p>
備考	